

ナシの樹体ジョイント仕立て栽培における 全量有機質肥料施肥体系の実証

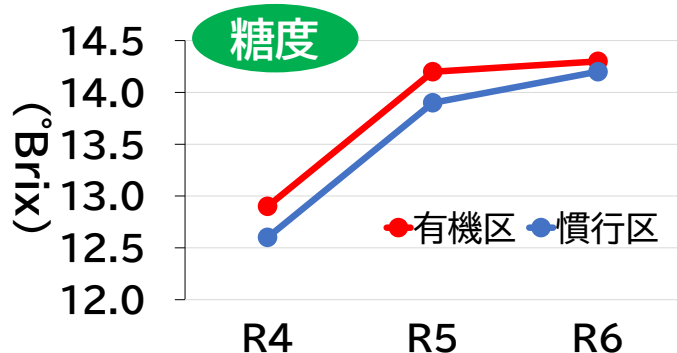
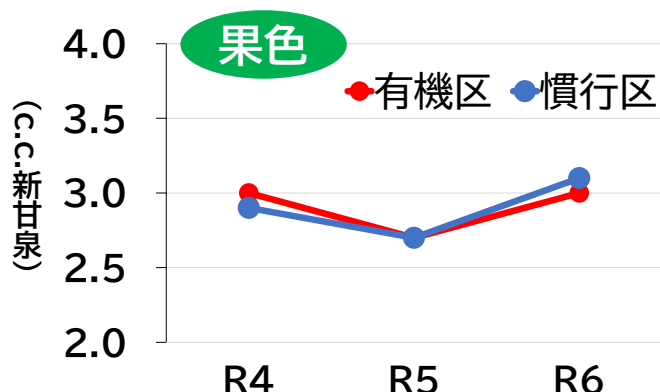
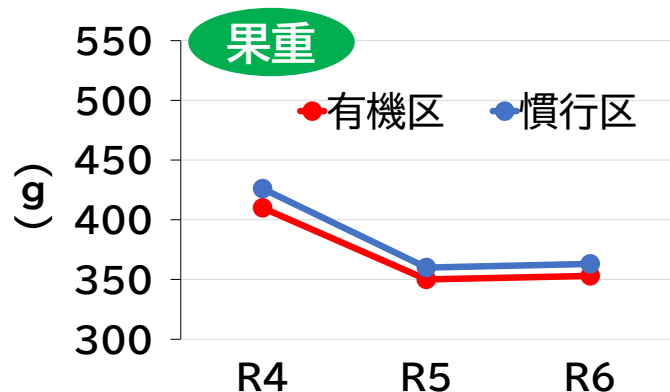


技術の概要

ナシの樹体ジョイント仕立て栽培園において有機質100%肥料のみを使用した施肥体系で栽培した「新甘泉」の果実品質や樹体生育は慣行肥料施肥体系と同程度であることを実証しました。

試験成果

- ①令和4年から3年間、県内3カ所の現地試験園において「新甘泉」を用いて調査を実施しました。
- ②有機質肥料施肥体系の果重、果色、糖度及び樹体生育は試験期間を通して、慣行施肥体系と差はみられませんでした。
- ③施用する窒素量を同等とした場合の10a当たりの年間肥料代は、有機区が慣行区よりも1.3～2.6倍高くなりました。



※グラフはA園の結果を示しています。

試験園における10a当たりの年間肥料代

現地試験園名	処理区	年間の肥料費 (円/10a)	慣行比
A 園	有機	14,345 円	2.6 倍
	慣行	5,566 円	
B 園	有機	43,015 円	1.3 倍
	慣行	32,833 円	
C 園	有機	34,821 円	1.4 倍
	慣行	24,882 円	

技術を導入する際の留意点

有機質肥料は化学合成肥料よりも含有する肥料成分が少ないため、慣行施肥体系と比べ、肥料自体の投入量が1.1倍～2.3倍多くなることから作業量が多くなります。